

ごあいさつ

母、遠藤道子が93才の大往生を尽げて早くも三回忌となります。母の許に生を受けた私の人生を振り返りますと、類い稀な情熱をもって北海道の音楽界を牽引してきた母の強いエネルギーに生かされた半生でした。北海道から初受賞の「全日本学生音楽コンクール」、初入学の芸大附属高校、芸大在学中に参加したショパンコンクールでの受賞。母も娘も「怖いもの知らず」だからこそ成し遂げられたことかもしれません。

母の「音楽教育実験台」としての私、「ライヴァル」として反発しつつ強い絆で結ばれた母と子。そして母の最晩年、ごく普通の母娘としての7年間をぴったりと寄り添い、介護を通じての「恩返し」が叶ったことは、人間としての私の大きな宝となりました。

そんな思いを込め、母の愛器だったマホガニーのチップendaleの音色で、母との思い出の曲と共に皆様と御一緒に母を偲ぶことができれば幸せでございます。

遠藤郁子

遠藤道子

北海道ピアノ界の重鎮。遠藤郁子、三上桂子など国際的なピアニストを育てた。ポーランド文化功労勲章、文部省地域功労者表彰、北海道開発功労賞、北海道文化賞、札幌市民芸術賞、北海道ポーランド文化協会功労賞などを受賞。日本ショパン協会理事、同支部長、札幌ピアニスト協会(SPA)会長、日本ピアノ教育連盟評議員、札幌交響楽団評議員、日本教育連盟評議員及び北海道支部副会長、北海道ポーランド文化協会副会長、札幌教育文化財団評議員、北海道国際音楽交流協会理事、札幌教育文化財団理事、日本演奏連盟評議員、北大・教育大講師、大谷短大教授を歴任。平成23年11月24日没。享年93才。



遠藤郁子

巨匠アルトゥール・ルービンシュタイン、ヴラド・ペルルミュテル、パウル・パドゥラ・スコダ、ロンドン『ディリー・テレグラフ』、人間国宝・金春信高、文化功労者・畑中良輔など芸術界重鎮の諸氏が絶賛する遠藤のピアノの音は、作曲家の音霊(おとだま)を伝える唯一無二のものである。安宅賞、ショパン国際コンクール特別銀賞、オフリッド音楽祭(ユーゴスラビア)功労賞、日本ショパン協会賞、2010年「ショパン生誕200年記念ブロンズ賞」他受賞多数。2000年ショパン国際コンクール審査員、日本ショパン協会理事。NPOまづるか北海道理事長。遠藤道子記念音楽館館長。



水戸の実家



1957年全日本学生コンクール入賞



1947年自宅前



1956年北海道学生音楽コンクール最優秀賞受賞



北大植物園



1985年ショパンコンクール招待演奏